

インターネット上で知り合った人との交流について

インターネット上では、実生活での知り合いだけでなく、面識のない人とも気軽に交流することができます。しかし、そんな相手とのやりとりをきっかけに、子どもたちが深刻な事件に巻き込まれてしまうケースも少なくありません。

子どもたちの出会い目的でない投稿も事犯のきっかけに……

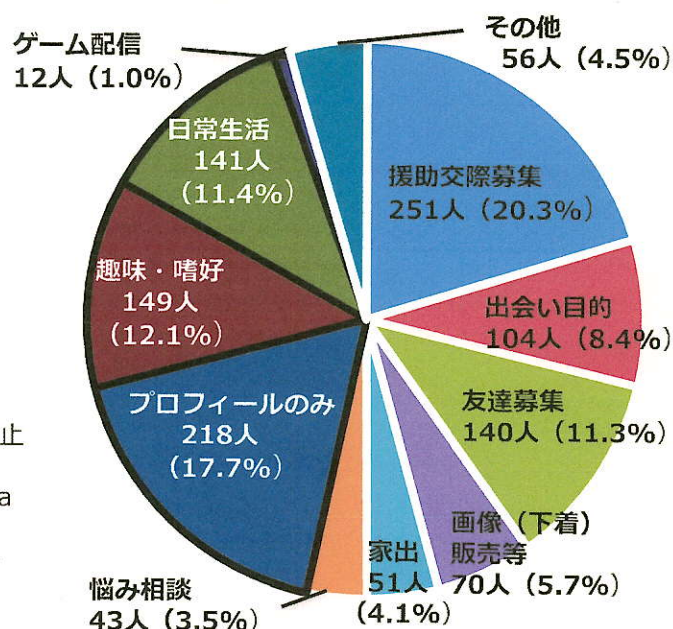
警察庁の調べによると、令和5年にSNS（通信ゲームを含む）に起因する性犯罪等の事犯の被害にあった児童（18歳未満の青少年）の数は1665人で、そのうち最初に投稿した者が被害児童であったケースは1235、つまり**約4分の3は児童の投稿をきっかけに事犯が発生した**というわけです。

最初に投稿した1235人の児童の投稿内容の内訳には、「援助交際募集」「友だち募集」「出会い目的」などの他、「プロフィールのみ」や「趣味・嗜好」「日常生活」「ゲーム配信」といった、出会い目的でない投稿の割合も全体の4割以上を占めており、**他者と知り合うことが目的でない投稿でも深刻な事件に巻き込まれるきっかけとなりうる**ことがうかがえます。

参考資料

警察庁「インターネット利用における子供の性被害等の防止について」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/2ef78fa9-d8c3-4478-bce7-48da9b7bae7b/832beea0/20240613_policies_youth-kankyou_hikouhigai-gekkkan_cfa-r6_02.pdf



インターネット上でどれだけ仲良くなっても、相手がどんな人かはわからない

インターネット上では、顔写真や年齢、性別などのプロフィールを簡単に偽ることができるため、わいせつ行為などを目的に、同性や同年代の人物になりすまして子どもたちに近づいてくる悪意のある人がたくさんいます。

また、文字でコミュニケーションがとれるテキストチャットや、電話のように会話ができるオンラインゲームのボイスチャットなどを使ってやりとりを重ね、子どもたちを信用させてから「実際に会おう」と誘ってくるケースもあります。

インターネット上でどれだけ仲良くなったとしても、相手がいい人だとはかぎらないのです。



インターネット上で知り合った人との交流が心の支えになっている、という子どももいるので、知らない人とやりとりをするな、と頭ごなしに否定することはできません。子どもたちには、インターネット上で知り合った人とは絶対に会わないこと、自分の名前や住所、顔写真、学校名などの情報を教えないことを、繰り返し注意してください。